

自分らしく、^{いき}粋なくらし。

2003.2
早春号
NO.2

らしっくは、自分らしく、
粋なくらしを目指す人たち
を応援する情報誌です。

広島市まちづくり市民交流プラザ情報誌



らしっくサロン

「**広島のまちを楽しむ**」

「**まちも歩けばミュージアム**」

まちを盛り上げる
こんな人たちが
まっていた!

まちびときたる
「**おくる**」

- International Communication Group
国際交流グループ ラドゥガ ヒロシマ
- NPOコミュニティリーダー ひゅーる ぽん
- オタフクソース株式会社

まなんで
ひらいて **達人図鑑**

- まちづくりボランティア人材バンク交流会
- 広島県行政書士会国際業務協議会

応援します!生涯学習、ボランティア・市民活動



ちょっと見ると、ごく普通の電信柱。でも、根元の部分（右写真）にご注目！電信柱が成長しているように見えるヨ。いつか「ジャックと豆の木」のようになるのかな？（市民交流プラザ前）

成長する電信柱

ぼくらはみんな生きている!?

まちを歩けば何かが見つかる
見つけてみると何かが変わる

まちめがね

今回の
イチオシ 情報!



市民の皆さんがまちを歩いていて見つけた、「面白いもの」「気になるもの」を紹介するこのコーナー。まち歩きが楽しくなること、間違いなしです。



カサ フラン カ
傘がぶらんと花になる

君の瞳に... カサブランカ?

枯れ葉の街路樹に季節はずれの真っ赤な花が...? 「おーい、忘れ物! いらんのなら、ボク(木)がもらうヨ。誰にもカサんゾ!」

●今回の特派員

まちづくり学校の
皆さん

袋町界隈編

てくてく特派員が
袋町で見つけた
こんなもの



まちめがね情報
募集中!

「まちで面白いものをみつけたヨ」「うちの近所に不思議なものがあるの」などの情報をお持ちの方、郵送・ファクス・電子メール等で、らしっく編集部までどしどしお寄せください。「てくてく特派員になってみたい」という方、はさみ込みのアンケートでご応募ください。このコーナーで紹介した情報のご提供者には、編集部から図書券(500円分)のプレゼントを差し上げます。

■らしっく編集部

〒730-0031

広島市中区紙屋町1-2-22

広電ビル6F

㈱ガリバープロダクツ

TEL 082-240-0768

FAX 082-248-7565

E-mail info@gariver.co.jp



どこかで見たような顔ですが...

ボクを探してください!

「ブルドッグ!」「ニャロメ~?」
いや、人の顔のようにも見えるボク。
こんなに愛嬌があるのに、なかなか
気づいてくれる人がいません。さて、
ボクはどこにいるでしょう?



広島市まちづくり市民交流プラザ情報誌

2003.2
早春号
NO.2

らしっくは、自分らしく、
粋なくらしを目指す人たち
を応援する情報誌です。

「らしっく」は、自分らしくの“らしく”
と、粋(な)という意味の“シック[chic]”
を合わせた造語。



2 まちびときたる 「おくる」

- International Communication Group
国際交流グループ ラドゥガ ヒロシマ
- NPOコミュニティリーダー ひゅーる ぽん
- オタフクソース株式会社



10 らしっくサロン 「広島のみちを楽しむ ～まちも歩けばミュージアム～」

西国街道散策会会長／佐々木卓也さん
写真愛好家／奥本敏雄さん
ガイドボランティアひととき代表／秦野英子さん
古田学区子ども会会長／河原和代さん



14 まなんで、ひらいて 達人図鑑

- まちづくりボランティア人材バンク交流会
- 広島県行政書士会国際業務協議会



18 気軽に寄れる学びの宝庫 よりみちデポ 広島市女性教育センター (WEプラザ)



20 ラーニングネットひろしまの 生涯学習のススメ

22 らしっく便利暦

26 ええねえ、a-ネット

28 フラサ倶楽部 今年2月、袋町が熱くなる!



ひろしまが大好き！と愛すべきこのまちや、
そこに住むひとびとのために、ひと肌脱いで
がんばっている人や団体をご紹介します。

まちびときたる

・今回のテーマ

おくる

平和の心を おくる

International Communication Group
国際交流グループ ラドゥガ ヒロシマ



お互いを知ることが平和につながる
——(クリスマスMATURI2002)

ボ ランティアとは、広辞苑によれば、自ら進んで社会事業などに無償で参加する人”という定義がなさ

「チエルノブイリに学んだヒロシマの意味

れています。一方、今回ご紹介するラドゥガのメンバーは、ボランティアを「地球上に住む人間として当たり前のこと」と定義して活動しているボランティアグループです。

ラドゥガの発足は、平成13年(2001年)4月26日。この日は、ちょうどチエルノブイリでの原発事故が起これば、15年を経た日に当たります。

発足のきっかけは、平成12年(2000年)11月、代表の埴田修平さん(たまた)が高校2年生の時、偶然、ウクライナから来日した「ナイチンゲール合唱団」のチャリティコンサートを鑑賞。「チエルノブイリでの惨劇を経て、世界の



代表の埴田修平さん

まちびときたる



平成14年10月4日、井口台小学校での講演会



平成14年12月8日、広島国際会議場にて「世界の若者広場 in ヒロシマ」を開催



スクリーンを使ってカザフスタン共和国の勉強



井口台小学校でのふれあい広場にも参加しました。



話し合いの時の顔は真剣そのもの

ヒロシマ・セミパラチンスク・プロジェクト：カザフスタン共和国セミパラチンスク市への医療支援を中心
に活動を行うNGO団体



平和への思いで つながる若者たち

帰 国後、グループのメンバーは、自然と集まってきたそうです。「活動をPRしたわけじゃないんです。でも、どこから知ったのか、徐々に問

平和を願う歌声の美しさに鳥肌が立つほど感動した」ことからだそうです。その後、坪田さんは「つながりを切りたくない」と翌年3月に単身、ウクライナを訪れ、ナイチンゲール合唱団と再会。さらに、チエルノブイリ原発事故の惨状を間近にした坪田さんは、「僕自身、ヒロシマで生まれ育ち、平和への思いというのは強くありました。でもこの経験から、ヒロシマのこのだけ伝えるんじゃなく、世界の平和も発信する必要性を感じたんです」と、語ります。

実際に触れ学んで

い合わせを受けるようになりました。現在の正式メンバーは、高校生、大学生を中心とした約50人。「茶髪もいれば、携帯電話好きもいる、今どきの若者たち。でも、平和への思いは強いんです」と笑顔で語る坪田さん。根幹の思いが同じだからこそ、団結力やスムーズな活動につながっているのだという。

ラ ドウガの取り組みは、国際交流を通じた平和への思いの普及。現在は、特にカザフスタン共和国との交流・支援・協力を力を入れています。

平成14年（2002年）10月には、若者との交流、核実験の傷跡に直接触れる、カザフスタン共和国の文化・歴史・芸能を知るという目的を掲げ、ヒロシマ・セミパラチンスク・プロジェクト（ ）のスタディーツアーに参加。また、12月には、カザフスタン共和国独立記念のレセプションパーティーに出席するなど、積極的な活動を展開。その経験は、学校や公民館での講演会、カザフスタン共和国の文化紹介や民芸品の展示・バザーなど、イベントを通して多くの入々に伝えられ、大きな成果に結びついています。

さらに9月には、坪田さんが講演会

発

足後、試行錯誤を重ねてきたラドゥガですが、今では、共感し

世界の若者と ひとつになる

で訪れた縁により、井口台小学校の生徒36人から成る「ラドゥガ ヒロシマ Jr.」が発足しました。Jr.のメンバーたちは、いろいろな国の留学生を交えたイベントを開催するたびに集合。留学生が披露する各国の遊びや文化の紹介、平和学習などでその国を知り、世界平和への関心を高めています。

イベントのコンセプトは「おもしろおかしく」。学習という色合いばかりを持たせるのではなく、留学生と触れ合い、その国の文化や遊びを知りながら、各国の平和を考えようと、さまざまな工夫がなされています。



「国際交流・協力の日」のバザー会場で、カザフスタンの民芸品を紹介（昨年12月8日、広島国際会議場）

International Communication Group 国際交流グループ ラドゥガ ヒロシマ

ラドゥガとは、ロシア語で「虹」という意味。メンバーは高校生や大学生を中心に構成。毎月2回以上行われる定例会や講演会、イベントを実施。他国との交流を通じて平和活動を展開。

〒730-0036 広島市中区袋町6-36
まちづくり市民交流プラザ フリースペース内メールボックス№40「国際交流グループ ラドゥガ ヒロシマ」
TEL 070-5425-0415（事務局）
hamamoto@abeam.ocn.ne.jp
http://www9.ocn.ne.jp/icg-niji/

てくれる人たちも増え、活動も大きな反響を呼ぶようになっていきます。

今後もメンバーは、自身の学習とその成果の普及、イベントによるメンバー・子どもたち・留学生の輪の構築、そして世界平和への意識の向上を願い、さまざまな活動を企画。春には、カザフスタンの子どもたちに、Jr.のメンバーがヒロシマの良さを語ったビデオレターを届けに行くそうです。

「活動を通して生まれた他団体との連携を生かし、ヒロシマという都市から平和の心を送り続けていきたい」と力強く語る埤田さん。さらなる躍進を目指すラドゥガの活動からは目が離せません。



司会進行役を努め、イベントを盛り上げた宇宙のアイドル！ジョナサン＆ジョナサン

ラドゥガ最新レポート

平成14年（2002年）12月21日、西区の井口台児童館で「クリスマスMATURI2002」が開催されました。当日は、ラドゥガのメンバーや国際交流グループの「ISHR」のメンバー、広陵高校の生徒会、ダンスチーム「ファンキージャムキッズ」がスタッフとして参加。ラドゥガJr.やカザフスタン、韓国、モンゴル、ペルー、トルコの留学生が一緒になって、ダンスや歌で盛り上がりました。



魅惑的なファンキージャムキッズによるダンスショー



みんなでそろって記念撮影



遊びを通じて交流のきっかけに



留学生などによる文化の披露



まちびときたる

あったかな エールをまくる

NPO コミュニティリーダー
ひゅーる ぽん



昨年8月に行われたキャンプのひとコマ。笑い声の絶えない楽しい活動です。

“ひゅーる ぽん”という楽しそうな名前を持つボランティアグループがあります。20年前に始まった活動が、今ではNPOに発展し、活動の幅も人のつながりも大きく広がりました。

“あったかなまちづくり”を目指して、地域社会にエールを送り続ける「ひゅーる ぽん」。

その元気の秘密は何でしょうか？

「ひゅーる ぽん」誕生

「ひゅーる ぽん」のもととなった活動がスタートしたのは、昭和56年（1981年）。障害のある子どもを持つ一人のお母さんが、養護学校が夏休みや冬休みに入ると、親子で家に閉じこもりがちになることに悩んでいた。そこで、休みの間でも子どもたちと一緒に過ごす居場所をつくりたいと考えて、「同じように悩んでいる子どもやお母さんと一緒に、みんなで楽しめる、学校をつくらう」と思い立ち、周囲に呼び掛けて活動が始まりました。親子をはじめ、高校生や大学生を中心とするボランティア、民生委員など、立ち上がりから百人を超える参加者が集まり、いろいろなイベントで大いに

盛り上がったそうです。

それから2年後の昭和58年（1983年）、それらの活動がきっかけになり、「自分たちからも何か子どもたちのため、地域の豊かさづくりのために動いていこう」という意志が集まった仲間によって結成されたグループが「ひゅーる ぽん」です。このユニークな名前は、子どもたちが大好きな歌と踊りのレクリエーション・ソングに由来します。定例会や会報の発行、春・夏・冬休みの学級や土曜保育などの支援活動を中心に、キャンプや旅行、スポーツなど多彩な活動を行ってきました。

平成13年（2001年）9月には、NPO法人格を取得。活動の幅も広が



障害のある人とも自然に交流が行われています。

右/昨年3月に主催した牛住真理子さんの
バイオリン&トークコンサート
左/来日したインドの子どもたちとも交流



り、メンバーも増え、企業や行政など
と連携して行う活動も増えています。

あつたかなまち づくりを目指して

そ んな「ひゅーる ぼん」のモットーは、あつたかなまちづくり。

メンバーの自ら行動する「自発性」、地域の人々や他団体、行政、企業などとの「協働性」、思いをかたちにしてい「創造性」をキーワードに、誰もが心安らげる地域社会の形成を目指してきました。

「私たちの活動範囲は多方面に渡っていますが、市民活動の気運やリーダーとなる人材を現場から育て、社会を豊かにしていく、市民「人」が増えていくことが大切だと考えています」と、団長の川口隆司さんは語ります。「まちづくりやボランティアなど、すべての市民活動は行政などからの働き掛けを待つのではなく、現場にいる人が自分たちの力で自発的に盛り上げていかなくては...」というのが、川口さんの考えです。

1 コミュニティスペースプログラム

障害のある子どもたちや不登校の子どもたちが通うコミュニティスペース（フリースクール）「じゃんけんぼん」や、週末に設けられるコミュニティ共室「ぼんきず」の運営。いつでもそのままの自分を受け入れてくれる仲間がいるという安心感を子どもたちに提供し、子どもたちの心の拠点となる居場所づくりを実施。



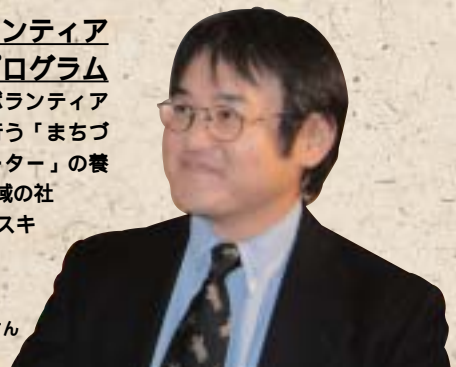
平成13年12月16日に佐東公民館（安佐北区）で行われた「おもちゃをしよう」プログラム

2 まちづくりフロンティアプログラム

講演会や「アート・ルネッサンス展」(次頁)など各種文化・啓発・協働行事の実施や協力。「安佐南区まちづくり委員会」、行政などの関連会議への委員派遣などのまちづくりにつながる活動。広報誌やインターネットによる情報発信。

3 コミュニティボランティア参加・育成支援プログラム

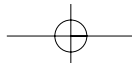
ボランティアをしたい人と、ボランティアを求めている団体との仲介を行う「まちづくりボランティアコーディネーター」の養成講座を県と共催するなど、地域の社会活動のリーダーとなる人材のスキルアップ・育成。



ひゅーる ぼん 団長 川口隆司さん

NPO コミュニティリーダー ひゅーる ぼん

〒731-0102
広島市安佐南区川内5-14-24 2階
TEL 082-831-6888
FAX 082-831-6889
ぼんびっち(PHS) 070-5056-6888
hotSPACE@hullpong.jp
http://www.hullpong.jp/



市民交流プラザギャラリー
ーで行われたアート・ルネッ
サンス2002の会場風景
場内にはところどころに椅子
が置かれ、ゆっくりと鑑賞
する人の姿が見られました
会場運営もすべてボランティア
スタッフが行いました



魂の芸術"アート・ ルネッサンス展

平

成 14 年（2002 年）12 月 7 日
〜 15 日の 8 日間、広島市まちづ
くり市民交流プラザ・ギャラリーにお
いて、障害のある人の芸術作品展ア
ート・ルネッサンス 2002 が開催され
ました（裏表紙にも作品の一部を紹介
しています）。

「ひゅーる ぼん」のまちづくりフロ
ンティアプログラムの一環として行わ
れているこの展示会は、一昨年に続い
て 2 回目。前回に続いて、展示会の趣
旨に賛同した株式会社 N T T ドコモ中
国の特別協賛を受けて、開催されまし
た。県内の障害者施設や作業所などか
ら寄せられた 215 点の応募作品のう
ち、地元の芸術家による審査を通過し
た 101 点の作品が展示されました。
力強い作品の数々を前に、審査は長時
間に及んだそうです。会場の設営から
作品の配置、ライティング（照明）に
至るまでをすべて大学の教授をはじめ
とする専門家が手掛け、芸術の一ジ
ヤンルとしての障害者芸術の意識の高ま
りを感じさせる、本格的な展示会とな
りました。

期間中、会場には大勢の観覧者が訪
れ、色彩の鮮やかさ、手法の斬新さに

感動。会場で回収されたアンケートに
は、「芸術の新しい可能性を感じた」
「心が癒された」などの感想が多数記さ
れていたそうです。

人と人の心の触れ 合いとは？

団

長の川口さんは、初めて障害の
ある人が描いた絵を見た時、描
いた人の「魂」が伝わってくるのを感じ
たそうです。「芸術は人の心の深いと
ころに届く力を持っている」と強く実
感した瞬間でした。その時の思いがき
っかけで、多くの人とのお出会いと協力
があり、アート・ルネッサンス展が実
現。広島での障害者芸術に対する関心
や認知度も少しずつ高まっています。

「障害のある人と日常的に接する機会
を持つ人は決して多くありません。ポ
ランティアなどで直接的な接点を持つ
以外にも、芸術作品を通じて作者と見
る人が心の深いところで触れ合う、こ
んな形の「交流」もあるんだというこ
とを、多くの人に知っていただきたい
ですね」と川口さん。

さまざまな人々が、ボランティアや
芸術など多くの接点でつながり合うま
ちづくりを目指して、今後も「ひゅー
る ぼん」の多彩な活動が続きます。

団らの ぬくもりをのくる

オタフクソース株式会社

海でも山でも、どんな場所にも出かける、
「お好み焼・団らん号」



企業の社会貢献活動や社員のボランティア活動など、本業以外に力を入れる企業は少なくありません。オタフクソース株式会社は、食卓を囲んで生まれる「団らん」の温もりを多くの人に伝えるため、ユニークな社会貢献活動を行っています。その活動現場を訪ねました。

訪問ボランティア お好み焼キャラバン

広 島と言えば、お好み焼！それに欠かせないのがお好みソース。オタフクソース株式会社は、お好みソース等を製造・販売しながら、「団らん応援します」をキャッチコピーに、食を通じて幸せが実感できる団らんを応援しています。

同社は広島を基盤とした企業で、社内には、「うちの会社は広島に育ててもらっている」という雰囲気根付いています。その広島に恩返しをしたいという思いが、お好み焼訪問ボランティア活動を生みしました。平成10年（1998年）から始まったこの活動は、材料や鉄板を持って高齢者福祉施設や児童養護施設などを訪問し、目の前でお好み焼を無料で焼くというもの。鉄

板で焼いたお好み焼を食べる機会の少ないお年寄りや子どもたちに、おいしいお好み焼を届けたいという思いから始められました。
鉄板を持って入れない施設もあるため、鉄板台や冷蔵庫、給水設備や自家



車を囲むように子どもたちが集まります
(昨年12月)

まちびときたる



お話を伺ったお好み焼課長の
まつもとしげのり
松本重訓さん

このひと振りで
おいしさが
さらに倍増!



2人で焼いたお好み焼はなんと170枚!

お好み焼を焼くのは、実行部隊であるお好み焼課の松本さんと手島さんの2人。子どもたちの、「サントさん、おいしいお好み焼を作ってね」という声援に励み、3時間をかけて170枚を焼き上げました。ダブルを注文したり、お代わりをしたり、1枚のお好み焼を仲良く分け合ったり。子どもたちは何日も前から楽しみにしていた行事を、満喫しました。

松本さんがまとめるキャラバンチームには、希望社員が参加することもあ

子供たちの笑顔に つつまれて…

平

成14年(2002年)12月25日、
児童養護施設の広島修道院でお
好み焼訪問ボランティアが行われまし
た。クリスマスということもあり、車
はクリスマス用にペイントされていま
す。

発電機を搭載した、「お好み焼・団らん号」が開発されました。お好み焼の屋台の雰囲気を出すため、鉄板やのれんにもこだわっています。BGMが流せるように、スピーカーも完備。排水設備もあり、どんな場所に出掛けてもお好み焼を焼くことができます。

ります。

手島さんは、週2回、
月8件のペー
スで施設な
どを訪問し
ます。全員が
施設にいらっ
しやる日を選んで、訪

問するようにしています。たいていは昼食時間に合わせて行いますが、夕方から始めることもあります。施設の先生や栄養士の方と話し合って、アレルギーのある子どもにも対応するなど、楽しみにしていてくれる子どもたちの笑顔が見たいから、しっかり打ち合わせを行います。子どもたちは寒いにもかかわらず、外で待っていてくれます。それがとてもうれしいですね」と語ってくれました。



オタフクソース株式会社
研修センタービル。ここから
団らん号が発進します。

オタフクソース株式会社

お好みソースを中心に、お好み焼材料や調味料を製造販売している。平成10年(1998年)よりお好み焼訪問ボランティアを始め、お好み焼による地域貢献活動を展開している。創業大正11年(1922年)、設立昭和27年(1952年)、資本金1億円。従業員数408人。

営業本部 広島市西区商工センター7-4-5
TEL 082-277-7798

読者
プレゼント

オタフクソースオリジナル湯飲みを3名の方にプレゼントします。詳しくは、はさみ込みの別紙アンケートをご覧ください。

実行部隊の手島博行さん
てしげのりさん

